

遺伝子の目的とする多型を判定し、両群間のアレル頻度、遺伝子型頻度、ハプロタイプ頻度を比較した。これらの遺伝子のいずれにおいても統合失調症との関連は認めなかったが、今後もより網羅的な遺伝子関連研究を行う必要がある。

8 抑制性 Fc γ レセプター (Fc γ RIIB) 遺伝子多型と歯周炎・SLE 感受性との関連

小林 哲夫*, **・安田 桂子*
伊藤 聡***, ****・杉田 典子*
黒田 毅***・山本 幸司*
成田 一衛***・下条 文武***
吉江 弘正*

新潟大学大学院医歯学総合研究科
歯周診断・再建学分野*

新潟大学医歯学総合病院歯科総合
診療部**

新潟大学大学院医歯学総合研究科
腎・膠原病内科学分野***

筑波大学大学院人間総合科学研究
科臨床免疫学分野****

【目的】1q23 上 Fc γ RIIB は抑制性シグナル伝達のアミノ酸モチーフ (ITIM) を有し B 細胞に主に発現することから IgG 抗体産生を抑制する。SLE 及び歯周炎の病因に IgG レベルが関与することから Fc γ RIIB 遺伝子多型の影響が考えら

れ相関解析を行った。

【方法】SLE 患者 66 名、歯周炎患者 58 名、健常者 44 名を対象に、末梢血からゲノム DNA 抽出後にダイレクトシーケンス法にて exon 5 (膜貫通部) の Fc γ RIIB-232I/T 遺伝子型を決定した。

【結果】健常者と比べて Fc γ RIIB-232T/T 遺伝子型および-232T アレルの頻度が、SLE 患者、歯周炎患者、並びに歯周炎を有する SLE 患者において統計学的に有意に高かった。

【考察および結論】以前に Fc γ RIIA-R/H131 が SLE と歯周炎の共通リスク遺伝子多型であることを報告したが、Fc γ RIIB-232I/T も同様に日本人健常者での共通リスク因子となる可能性が示唆された。今後も多型パネルを追加して歯周炎とリウマチ疾患との関連性を検討していく予定である。

II. 教育講演

「3 万個のマイクロサテライトを用いたゲノムワイドな相関解析による多因子性疾患関連遺伝子の同定」

東海大学医学部附属病院分子生命科学教授

猪子 英俊